



R.I. District2610 . ROTARY CLUB OF UOZU
魚津ロータリークラブ 会報誌
2008 - 2009 年度 RI 会長 李 東建 (リ トンカン)
魚津 R.C 会長 大村 雅紹

第 2679 回 例会報告

2009 年 5 月 15 日

ゲスト並びにビジター紹介

ゲスト 富山大手町 R C 金原和武様 氷見丈行様
ビジター なし 米山奨学生 なし

誕生祝

該当者なし

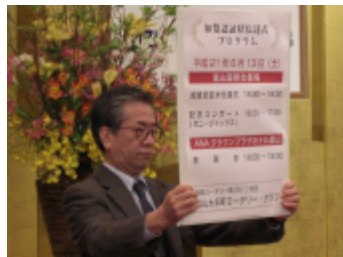
バナー交換

富山大手町 R C 魚津 R C

クラブ紹介

富山大手町 R C 認証伝達式のお願

いです。村岡会長の代理で参りました。高柳カバナーや多くの皆様のご指名で富山中 R C を親クラブとして発足しました。2610 地区の



66 番目のクラブです。認証伝達式は 6 月 13 日 (土) に富山国際会議場で行ない、ボニージャックスを迎えて記念コンサートも企画しています。ご家族や知り合いの方など多数の参加を頂き、認証伝達式の成功と当クラブの発展を願って握手をお願いします。

会長挨拶

大村会長 皆さんこんにちは。今日は、富山大手町 R C の金原さん、氷見さん、ようこそおいで頂きました。これからの大手町 R C のご発展を心よりお祈り申し上げます。先日の例会は、取引先に不幸があり欠席し、誠に申し訳ありませんでした。



来週いよいよ釜山釜一 R C の皆さんをおいでになりますが、現在、世界中で、新型インフルエンザで騒がれておりますが、予定通り 22 日から和やかにお待ちしております。皆様のご協力をお願いします。奥様方にもよろしくお願い申し上げます。

(...その後、延期となっております。)

今日は、「エニシダ」と言う花の紹介です。ヨーロッパ地中海の原産です。大体、2m 前後になります。この辺では 5 月頃鮮やかな花が咲きます。

幹事報告

第 10 回ロータリー日韓神前会議 9 月 4・5 日、ソウル、グランドハイアットホテル、登録料：21,000 円、いくつかのコースがあります。申し込みは事務局まで。

魚津市交通センター 定時総会、表彰式の案内、5 月 23 日 pm 5:00 ~、ホテルグランミラージュ、懇親会会費：5,000 円、申し込みは事務局へ

魚津市「社会に学ぶ 14 歳の挑戦」事業推進委員会 今年度の実施要綱について、7/6 ~ 7/12、詳細は後日連絡ありへ
その他 本日例会後、理事の方集合

出席報告

第 2679 回 出席者：29 名 出席率：85% メイキャブ済：中島

第 2677 回 メイキャブ：なし 出席率：変更なし

ニコニコボックス

富山大手町 R C 志をたくさん頂きました。

委員会報告など 釜山釜一委員会 辻(浩)委員長 来週金曜日 富山空港着、総勢16名(会員15名、事務局1名) スケジュールは連絡済、今回の参加者は初めての方が9割です。出欠は今日中に連絡要。お土産は、当クラブから一人ずつお渡しします。個人的なお土産は歓迎会場の時が良いと判断しています。

本日の卓話 中田さん・・・【世界の紙、板紙の現状について】



中田です。入会して一年経ちました。卓話の機会を頂きありがとうございます。私の仕事は、紙に関する事業をやっておりますので、紙に関するお話をまとめてきました。テーマは大きいですが世界の板紙の現状についての話です。

富山県ですが県内の3工場についてピックアップしました。西のほうには中越パルプ工業、富山市内の富岩運河の近くに富山製紙、立山町の立山製紙などがございます。富山製紙はナミナミ軟筒、シカン(紙が硬いもの)などの原紙を作っています。立山製紙さんはコクヨのアルバムとかの原紙などを製造されています。中越パルプさんは、規模的に大きく新聞紙とか薄紙とか作っておられ、煙突から煙がもうもうと上がっています。これらの会社が富山県内に存在すると言う事を知ってもらいたいと思います。

日本全体の紙と板紙の生産量の推移と、日本の上位10社について話をします。1998年から2007年までの君の生産量は、日本ではここ10年間、ほぼ変わりがありません。板紙の方は逆に下がり気味になっています。日本の製紙会社は、日本製紙、王子製紙、日本大昭和製紙...とかありますが、昨年のトピックスとして、王子製紙の北越製紙に対するTOPがあって、ここ10年間で目まぐるしく淘汰や合併が繰り返されるような寡占状態が続いております。上位4~5社で日本全体の80%位の市場を制覇している状態になっております。

一方、世界はどうなっているかと言いますと、1998年から2007年の統計ですが、日本の生産量はほぼ平行線ですが、世界は目ざましく伸びております。世界の板紙の生産量のトップはアメリカ、二位が中国、三位が日本で、ドイツ、カナダと続いています。少し前までは、日本が二位でしたが、中国に抜かれました。上位二つが断トツで、2008年度は中国がNO.1の生産国になりました。おそろしい生産力があり、ますます格差が現れて来ると考えられます。世界の製紙会社10傑の中では、王子製紙が100年の歴史がありますが、6番目と9番目に日本製紙グループの2社があり、規模的にはまだまだ世界に追いついていないと言う事でございます。

紙の原料になる古紙ですが、日本は紙の回収率が非常に高く、PTAなどで回収されるようなシステムが出来上がっていると見ることが出来ます。韓国は回収率や利用率が世界NO.1ですが、特に、日本と韓国は資源のない国として、いかに紙を回収して有効利用するかと言う事が現実としてあります。日本は古紙の回収率は74.5%で利用率が61.4%、古紙がきめ細かく使用され良い形で利用されていると言う事であります。中国は古紙の回収率が非常に悪く、日本から多くの古紙が中国へ輸出され集まった紙が国際商品と言った状況です。古紙がお金になるという時代がありました。

日本の場合、ダンボールは最終的に回収し、水に溶かして、再度、ダンボールの板紙に生まれ変わるというリサイクルがされています。最近では、エコ対策と言う事で、ダンボールと土壌改良剤を合わせて生ごみを処理し適度な肥料にすることが実証されています。是非お役に立てて頂きたいと思います。【以上】